

# 立花英裕先生追悼特集にあたって

学会誌編集委員会

本学会第3代会長の立花英裕先生は、会長在任中の2021年8月16日に急逝された。2019年末よりご闘病中であつたとはいえ、あまりに突然のことであり、折からのコロナ禍によって、大方の会員は直接お目にかかる機会のないままのお別れとなつてしまった。ご闘病中も、オンラインで開催された全国大会や研究会、理事会には出席され、亡くなる直前まで変わらぬご指導をいただいていただけに、喪失感はひととき大きかつた。

そこで本学会では、先生のご功績を偲び、ご逝去からまもなく開催された2021年度全国大会において「立花英裕先生を偲んで」と題する企画を実施するとともに、学会誌やニュースレターにおいても先生を追悼する特集を組むことにした。学会誌では、本特集の趣旨に鑑みて多くの会員からの投稿を期待するとともに、審査期間を短くせざるをえないことから、一般投稿論文とは別に、追悼特集向けの研究ノートを2021年12月に募集した。そして、査読を経て、最終的に7編の研究ノートを掲載することができた。先生の幅広いご関心と、後進の育成に熱心であつたことを反映して、掲載される論考も、文学、ケベック・カリブ海関係、フランコフォニー、ジェンダーと多岐にわたり、文学のテーマも多彩である。改めて、先生が私たちに遺してくださったものの大きさを感じる次第である。

先生が旅立たれてから1年あまり、喪失感はいまだ埋まらないままではあるが、先生が私たちに期待されるのは、ケベック研究のさらなる推進であらう。これまでのご指導への感謝をこめて、本特集を立花先生の御霊前に捧げたい。

なお、立花先生の略歴ならびにご業績等については、長く教授を務められた早稲田大学の退職を記念して刊行された『人文論集』第57号（2019年、早稲田大学法学会）を参照されたい。

「立花英裕教授 略歴および主要研究業績」『人文論集』第57号、2019年、

263～276頁。

中村隆之「異邦性の感覚－立花英裕先生の人柄と研究をつなぐもの－」『人文論集』第57号、2019年、i～vi頁。

原田俊彦「立花英裕先生のご教示に接して」『人文論集』第57号、2019年、vii～x頁。



ダニー・ラフェリエール氏との対談にのぞむ立花英裕先生  
(2019年10月6日、立教大学で開催された日本ケベック学会全国大会にて、大石太郎撮影)